

『リサーチマインド（研究心）を持って診療する』
昭和大学藤が丘病院 内科(内分泌代謝科) 教授 谷山松雄

『臨床工学室 本当は身近な AED』
臨床工学室 技士長 小林 力

『昭和大学附属内科クリニック閉鎖について』
昭和大学藤が丘病院附属内科クリニック 所長 小岩文彦

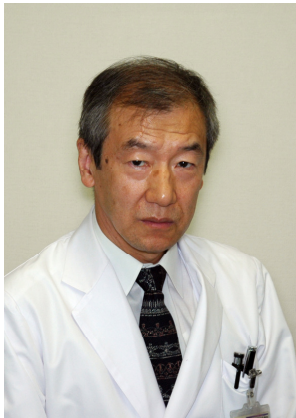
『感染管理室より 耐性菌について』

『整形外科留学生より』

『ミラクルサマーコンサートを開催しました』

巻頭言

『リサーチマインド（研究心）を持って診療する』



内科(内分泌代謝科)
医長・教授 谷山松雄

21世紀に入ってからの医学の進歩は目覚ましいものがあります。私どもの専門の糖尿病を例に挙げますと、これまでとはまったく機序の異なった新薬が次々と世に出てきていますし、血糖を自動的に測定しながらインスリンを注入する携帯型人工膵島も実用化目前となっています。このような先端医療はもとより、一般の診療においても多くの医療人の努力と患者さんの協力によって治療の根拠となるエビデンスが蓄積され、より科学的な診療が行われるようになりました。私たち医療人はこれまで積み上げられてきた知識や技術をマスターし、それらを生かす態度を身に付けて最善の医療を行っていくよう日夜精進しています。しかし大学病院や大規模病院の医師を始めとする医療人はこれだけでは十分ではありません。医学の進歩は一朝一夕にはもたらされず、多くの研究者・臨床家の地道な努力の上に成り立っています。私たちも医学・医療を

前進させるため研究にも携わってゆく必要があります。日常診療に追われる藤が丘病院ではなかなか基礎研究までは手が回りませんが、教科書や論文では解明できない疑問など、日常臨床の中にも解明すべき事象・研究すべき課題がたくさん存在します。常に疑問を發し、解明していくリサーチマインド(研究心)を持って診療することが大切です。研究心なくして真の良質の診療は出来ないと言っても過言ではありません。このような研究心を持って丁寧な診療をしていますと常に新しい発見があります。さらに自分が関与して解明すべきテーマも見つかってきます。たとえ小さなことでも藤が丘発の成果を出して少しでも医学の進歩に関わり、世の中に還元して行こうではありませんか。最後に患者の皆さん！どのような研究でも患者さんの協力は不可欠です。そのような機会がありましたら是非協力をお願いします。

昭和大学藤が丘病院 臨床工学室 『本当は身近な AED』



あなたの周りの人が急に倒れる。そんなことが今この瞬間に起こるかもしれません。急に倒れて脈が触れないときは、多くの場合、心臓の筋肉がけいれんを起こしてしまい、血液を全身に送ることができなくなっています。こんな時は、心臓の信号の伝わりがバラバラになってしまっていますので、電気ショックで一度全部リセットし直し、秩序ある心臓の動きを取り戻させる必要があります。AED(自動体外式除細動器)はこのような場合に使われます。発病してから1分経過するごとに7~10%ずつ生存退院率が下がるといわれ、一刻も早い処置が必要なため、救急車やお医者さんの到着を待つことなく、誰にでも簡単に使えるように開発された機器です。

AED の使用には資格は必要なく、誰でも使用して構いません。AED の蓋を開け、電源を入れたら(蓋を開けることによって自動的に電源が入る場合もあります)、あとは AED の言う通りに操作すれば OK です。ショックの必要がない場合には、絶対にショックを落としません。AED を使うことで危害を加えることはありませんので、安心して使ってください。自治体や消防署、NPO(特定非営利活動)法人等で開催している救命講習会では、AED の取り扱いも一緒に教えてくれます。(一部有料の場合もあります)日程や開催場所等を調べて、受けやすい講習会を選んで受けてみましょう。

(臨床工学室 技士長 小林 カ)



昭和大学藤が丘病院附属内科クリニック閉鎖について

昭和 57 年に昭和大学藤が丘病院人工透析センターのサテライト施設として開設され、維持透析患者の外来透析部門である昭和大学藤が丘病院附属内科クリニックが 2010 年 8 月末をもちまして閉鎖することになりました。設備の老朽化が進行して、利便性の高い安全な医療の提供が困難となったことが主な理由です。通院中の患者さんには大変なご迷惑とご苦勞をおかけいたしまして深くおわび申し上げます。また、近隣の透析施設の先生方におきましては、突然の患者さんの転院依頼にもかかわらず快くお引き受けいただき、さらに様々なご協力をいただきましたことに対して改めて深く感謝申し上げます。今後当院では維持透析患者さんの入院中の透析治療など、急性期医療を中心に地域に貢献してまいりますので、どうぞ皆様のご理解をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



(昭和大学藤が丘病院附属内科クリニック 所長 小岩文彦)

感染管理室より 『耐性菌について』

【耐性菌について】

院内感染の問題で耐性菌がクローズアップされていますが、一般の健康な方にとっては決して怖いものではありません。耐性菌についての具体的なお話をしましょう。



＜耐性菌とは＞

薬剤耐性菌といって、ある特定の抗生物質が効かなくなった細菌です。

耐性菌となる細菌の多くは、弱毒菌といって、健康な方には、あまり問題ありません。

病気などにより免疫状態が低下した患者さんに感染すると、日和見感染(細菌と戦う免疫が足りないため起こる感染症)を起こす場合があります。

＜予防方法＞

耐性菌は、接触感染といって、物や人の手などを介して触ることでうつる特徴があります。

予防のポイントは「うつさない(うつらない)・増やさない」です。次の点に気をつけましょう。

1. 日頃から、外出した後や食事をする前には、十分に手を洗いましょう。
2. 抗生物質をよく使う医療現場は耐性菌が様々な環境にいる可能性があります。
医療機関を受診する際、面会など前後には十分に手を洗いましょう。(手指消毒も効果的です)
3. 水回りなどの環境は、日常的にきちんと清掃しましょう。
(水回りが汚い状態が続くと湿潤を好む細菌が増えやすくなります)



※一ロメモ〜アシネトバクター菌について〜

多剤耐性アシネトバクターについては、報道でも様々取り上げられていますが、多剤耐性菌といっても強い毒性をもって、新たに危ない耐性菌がでているわけではありません。

もともとアシネトバクターは、土中や水回りなどの環境に存在し、乾燥した環境にも長く生き続ける菌です。実際、ある報告では、アシネトバクターを保菌(体の一部についている状態)している頻度は、夏季が多く53%、冬季でも32%であり、どこにでもいる菌と考えていただいたほうが良いでしょう。

(水回りが汚い状態が続くと湿潤を好む細菌が増えやすくなります)

(平成22年9月感染管理室)

整形外科留学生より

My name is Valdet Nikci. I am a fourth year medical student from the University of Pennsylvania and I am visiting Dr. Atsumi and Orthopaedic Department of Fujigaoka Hospital.

I was born in Montenegro and moved to New York City with my family when I was three years old. I grew up in New York and I attended undergraduate college at New York University where I majored in chemistry. Afterward I enrolled in medical school at the University of Pennsylvania where I will graduate next year.

I first visited Japan on vacation last summer. I had an amazing time. I thought Japan was the best country I had ever visited. Japanese people are the nicest and most polite people in the world. The food is absolutely fantastic and the places are like nowhere else in the world. After that, I knew I wanted to spend more time here. I spoke to one of my professors at school who had a friend in Japan and he contacted Dr. Atsumi on my behalf. Dr. Atsumi was very gracious and agreed to have me visit Fujigaoka Hospital, which has been incredible.

Everyone here has been very nice and they treat me as part of the team. It has been very interesting for me to see how a hospital in Japan functions compared with the United States. I have observed many interesting surgeries, some of which are not done in America, and this has been very educational for me. I have had a great time in Japan and I am very sad to leave, but I will take with me many great memories.



ミラクルサマーコンサートを開催しました

平成22年8月7日(土)15時より 藤が丘ハビリテーション病院 G階外来待合室にてミラクルサマーコンサートを開催しました。当日は、湘南スイングシスターズのかたにお越いただき、9曲演奏していただきました。105名の方にご参加いただき『良かった』『また聞きたい』といったアンケート結果を得ることができました。



編集後記

今年の夏は記録的な猛暑の日が続き、9月になっても平均気温を上回る真夏日が続いています。この暑さのせいで、夏バテならぬ秋バテの人が増えているようです。従来は夏バテは暑さが和らぐと回復しましたが、現代では、最も暑い時期を乗り切った後で不調が起こるそうなので、秋になってから疲れが出ているひとは要注意です。自分も思い当たるので、秋バテに有効といわれているビタミン類を充分に摂取しようと思っています。 広報委員 池田裕一

広報委員 三邊武幸 末木博彦 吉村吾志夫 谷山松雄
扇谷浩史 池田裕一 田口清 高橋良昌 上ノ宮彰
西山謙一 岩田香苗 吉原利栄 伊藤久美 高橋良治
庄司博 佐藤薫 川西文巳 渡邊哲 太田麻美 (順不同)